

- 1 単元名 「おもいうかべながら よもう」
教材名 「くじらぐも」(全8時間)

2 指導の立場

(1)単元について

児童は、教材「はなのみち」「おおきなかぶ」「やくそく」で、物語を読む際に動作化したり、声に出したりして楽しむことを経験している。本教材「くじらぐも」は、くじらぐもと子どもたちの会話や行動を想像することで、場面の様子を思い描けるようにさせたい。登場人物の会話や行動を想像することは、想像を膨らませながら理解をしていく学習につながる。くじらぐもと子どもたちのやりとりを動作化したり役割演技したりすることで、物語の場面の様子や登場人物の行動や思いを想像して音読していきたい。

また、内容をより楽しむために、本単元では、言語活動に『くじらぐもさんのおもいで』おんどくかいを設定する。導入で多様な雲の写真を提示し、身近に雲があることを実感させる。お話の中では児童は子どもたちになって、くじらぐもと一緒に体操したり、雲にとび乗ったり、空と一緒に散歩したりして友達のように感じるようにしたい。授業では、その楽しかった思い出が伝わるように思い浮かべながら音読する。本単元では、次の指導事項をねらいとして学習を設定する。

【思考力、判断力、表現力等】

◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。(C読むことイ)

【知識及び技能】

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。(知ク)

児童は、言語活動を通して、物語の様子を思い浮かべながらくじらぐもとの思い出を具体化して読んでいく。その際、繰り返しの表現や「」（かぎかっこ）の使い方や会話文の繰り返しの効果も押さえることで、誰が言った言葉なのか、どのような思いがあるのかを考えることができるようにしたい。

(2)本時について

本時は、子どもたちがくじらぐもととび乗ろうとする場面である。ずっとまねをしてきた空の上のくじらぐもと一緒に遊べる喜びを、本時の「天までとどけ、一、二、三。」の繰り返し表現を動作化することで、想像させていきたい。

前半では、子どもたちの「天までとどけ、一、二、三。」の言葉から様子を考えさせる。その際、どのくらいとんだのかを「三十センチ」「五十センチ」「かぜがふきとばした」から選ぶようにし、その理由を発表していく。

また、十分にとび乗る様子を想像した後、『天までとどけ、一、二、三。』の読み方が同じだったらどうかな。」と、仮定型発問を提示することで、力強くとぼうとする子どもたちの様子をより具体的に想像して読めるようにする。

3 個人研究に関わって

＜研究内容1－①言語活動を具体的にイメージし、付けたい力と言葉とのつながりを位置付けた単元構想を作成する＞

教科書の「天までとどけ、一、二、三。」や「やつと三十センチぐらい」などの物語を具体的に想像するために本時押さえる言葉とそこに着目させるための仮定型発問を位置付けた単元を構想した。

＜研究内容2－①付けたい力と言葉とをつなぐ仮定型発問の工夫をする＞

全体交流でくじらぐもに乗ろうと力強くとんだ様子を十分想像した後、『天までとどけ、一、二、三。』の読み方が同じだったら。」と、仮定型発問をすることで、もう一度子どもたちの言動に立ち返り、内容を想像できるようにする。

＜研究内容2－②仮定型発問後の小集団学習の工夫をする＞

仮定型発問の後、ペアで話し合う前に「じっくりタイム」をとり、自分の考えをもって、相手と交流するようにする。

＜研究内容3－①手掛かりとなる言葉に着目するための方法を精選する＞

「天までとどけ、一、二、三。」を動作化し、子どもたちのとび乗る様子を想像する。その際、「三十センチ」「五十センチ」「かぜがふきとばした」の言葉を提示し、「どのくらいとべたかな。」と児童に確認する。その理由を追求することで、子どもたちの様子や行動にある思いを読み取ることができるようにする。

＜研究内容3－②根拠となる言葉に着目させるための問い返しをする＞

「天までとどけ、一、二、三。」の台詞を想像する際、なんとなくの感覚で読むのではなく、子どもたちの行動や、様子を表す言葉に着目して考えさせるようにしたい。「どの言葉からかな。」「どのくらいとべたかな。」など、言葉を手掛かりに考えることができるよう問い返していく。

4 学習計画(全8時間)

- 第1次 学習計画・本文を読む・・・1時間
第2次 読み取り・・・5時間
第3次 音読会・・・2時間

5 共通視点に関わって

(1)「学び続けるたくましさ」が育成されている姿

子どもたちの会話や様子を表す言葉に着目して、くじらぐもととび乗る様子を力強く想像して読む姿。

(2)「学び続けるたくましさ」を育成するための手立て

- ・「天までとどけ、一、二、三。」の提示資料の大きさを定めることで、自分の想像している読みと比べて考えられるようにする。
- ・仮定型発問について黒板や教科書などを見直したり、本時の学習を振り返ったりしながら言葉を手掛かりに具体的に想像することができるようにする。